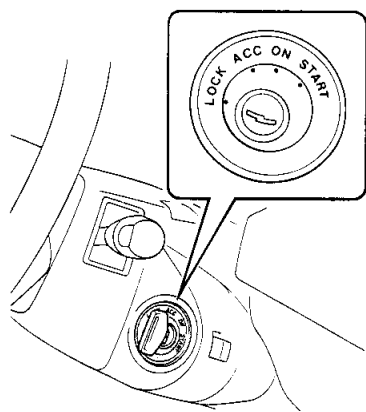


エンジンスイッチ	43
エンジンのかけ方	44
パーキング(駐車)ブレーキ	44
ホーン	45
マニュアルトランスミッション	45
オートマチックトランスミッション	46
SRSエアバッグ	48

## エンジンスイッチ

### 各位置の働き



LOCK  
(ロック)

キーを抜き差しできる位置。

キーを抜くとハンドルがロックされます。

ACC  
(アクセサリ)

エンジン停止時、次のものが使用できます。

オーディオ、シガレットライター、電動リモコンミラー

ON  
(オン)

エンジン回転中の位置。

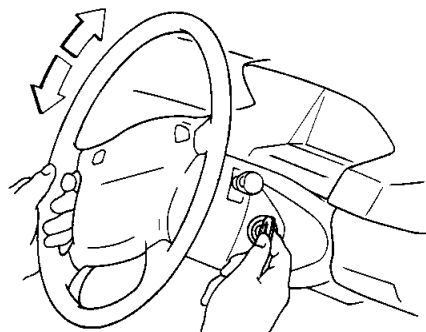
START  
(スタート)

エンジンを始動する位置。

### 知識

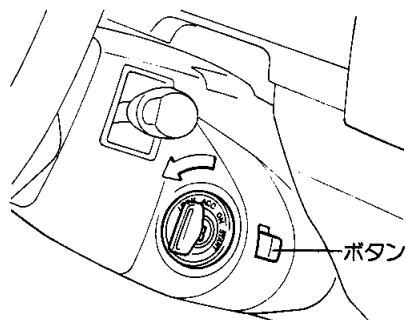
エンジン停止時はエンジンスイッチをONまたはACCのまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

### LOCKからACCに回すとき



キーが回りにくいときは、ハンドルを軽く左右に回しながらキーを回します。

### ACCからLOCKに回すとき



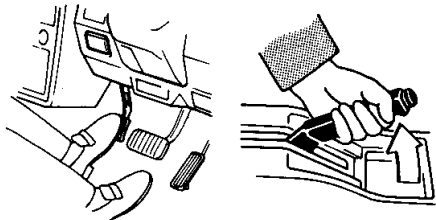
ボタンを押しながらキーを回します。

オートマチック車は、チェンジレバーがPの位置にないと回せません。

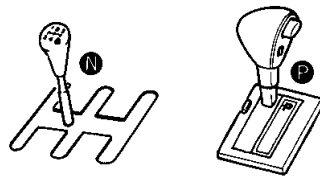
## エンジンのかけ方

エンジンをかける前に

- ① パーキング(駐車)ブレーキをかけます。



- ② チェンジレバーを、マニュアル車は●、オートマチック車は●にします。(●でも始動できますが、安全のため●で行ってください。)



## エンジンのかけ方

- ① エンジンスイッチをスタート位置に回しエンジンを始動します。  
アクセルペダルを踏まずに行います。

- ② エンジンがかかったらしばらく暖機運転をします。  
暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。

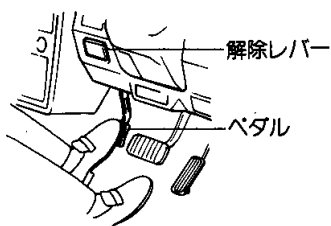
## パーキング(駐車)ブレーキ

### ⚠ 注意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

### 足踏み式

#### 4速オートマチックトランスミッション車

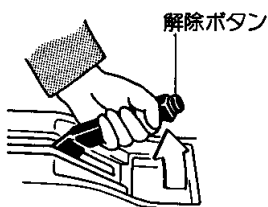


駐車するときは  
ペダルをいっぱいまで踏み込みます。

もどすときは  
レバーを引きます。

### センターレバー式

#### マニュアルトランスミッション車、3速オートマチックトランスミッション車



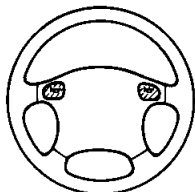
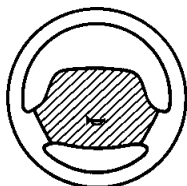
駐車するときは  
ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。

もどすときは  
レバーを少し引き上げながらボタンを押さえて、もどします。

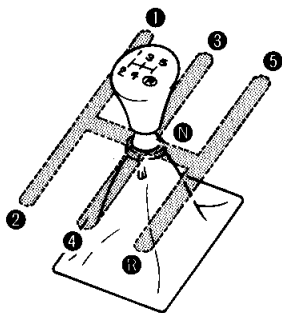
ホーン

〈SRSエアバッグ非装着車〉 〈SRSエアバッグ装着車〉

🔊 周辺部を押すとホーン(警音器)がなります。



マニュアルトランスミッション



Ⓜにいたるときは

⑤→Ⓜへは直接入れることができます。いったんⓃにしてからⓂへいれます。

駐車するときは

パーキング(駐車)ブレーキをかけ、チェンジレバーを①またはⓂの位置にします。

👉 アドバイス

車両が動いているときは①にいれないでください。車が完全に止まってから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。

(単位: km/h)

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が右表の数値をこえないようにしてください。

シフト位置 \ エンジン型式	1 G-FE	3 Y-E
1 速	45	35
2 速	80	65
3 速	120	100
4 速	155	140

運転装置の使い方

## オートマチックトランスミッション(シフトロックシステム付)

(14ページの「オートマチック車の正しい運転のしかた」もあわせてお読みください。)

## 名称と働き

**P** パーキング

## 駐車およびエンジン始動

車輪が固定されます。駐車の際は必ず**P**にしてください。**P**でのみエンジンスイッチからキーが抜けます。**R** リバース

## 後退

ブザーが鳴り**R**にあることを運転者に知らせます。**N** ニュートラル

## 動力が伝わらない状態

**N**でもエンジンは始動できますが、安全のため**P**で行ってください。**D** ドライブ

## 通常走行

スピードに応じてギヤが自動的に切り替わります。

**2** セカンド

## 下り坂走行

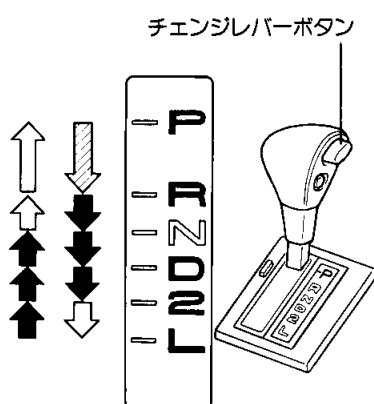
エンジンブレーキが必要なときに使います。


**L** ロー


## 急な下り坂走行


強力なエンジンブレーキが必要なときに使います。

## チェンジレバーの動かし方



 は、チェンジレバーボタンを押さずに操作します。

 は、チェンジレバーボタンを押して操作します。

 は、ブレーキペダルを踏んだまま、チェンジレバーボタンを押して操作します。

**警告**

→の操作はレバーボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反して●、●または●にいれてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

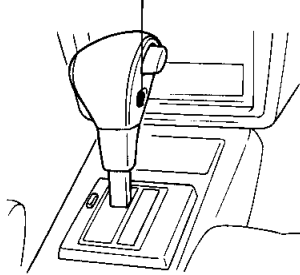
**知識**

- エンジンスイッチがACCまたはLOCKのときに、ブレーキペダルを踏んでも●からレバー操作できません。
- からレバー操作するときに、チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

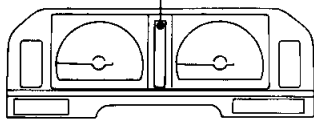
## オーバードライブ(O/D)スイッチ

グランデエディション、LG

オーバードライブスイッチ



オーバードライブOFF表示灯



スイッチを押すごとにONとOFFに切り替わります。

### 通常走行

スイッチをONにします。

①の位置で走行中、一定速度以上で4速ギヤにはいり、燃費性能と静粛性を高めます。

### 坂道走行

スイッチをOFFにします。

- 下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
- 上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

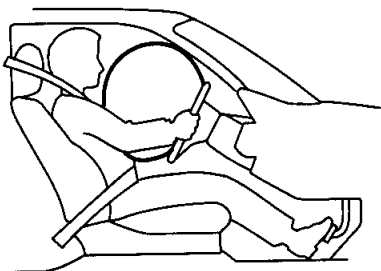
	スイッチの状態	表示灯
ON		O/D OFF (消灯)
OFF		O/D OFF (点灯)

運転装置の使い方

## SRSエアバッグ

グランデエディション、LGに標準装備

GL、DXに注文装備



SRS\* エアバッグは、運転者に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

シートベルトを必ず着用してください。

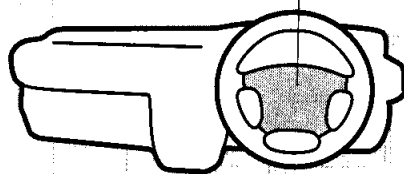
(36ページ参照)

\* SRSはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員保護補助装置の意味

## ⚠ 注意

- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

パッド部

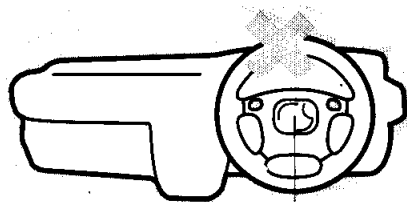


## 👉 アドバイス

SRSエアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

- シートベルトを正しく着用してください。  
SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトを正しく着用しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができません。  
シートベルトの着用については36ページを参照してください。
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。シートの調整については31ページを参照してください。
- 正しい姿勢でシートにすわってください。正しい姿勢ですわらないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、ハンドルに近づきすぎると、SRSエアバッグがふくらんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。  
正しい姿勢については31ページを参照してください。
- パッド部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。  
また、パッド部を手で強くたたくなどの衝撃を与えないでください。パッド内には、SRSエアバッグユニットが組み込まれているため、誤ってふくらんだり、衝突などのとき正常に作動しなくなったりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグがふくらんだあとに、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。  
SRSエアバッグがふくらんだあとは、構成部品が大変熱くなっていますので、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの取り付け・取りはずし、分解などをしないでください。また、SRSエアバッグを修理するときは必ずトヨタ販売店で行ってください。SRSエアバッグを不適切にあつかうと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 次のことを必ずお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり誤作動につながり重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。



ステッカー

運転装置の使い方

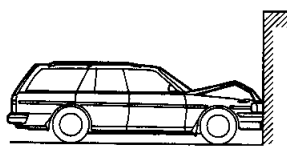
 知識

- 衝突により車両前部が大きく変形しても、衝撃吸収ボデー構造\*により乗員への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷とSRSエアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

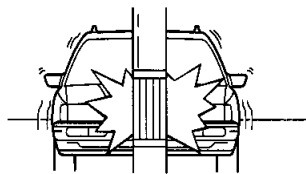
\*衝撃吸収ボデー構造は、衝突時の衝撃をボデー前部を変形させることにより吸収します。

- SRSエアバッグは強い前面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上部が受ける重大な傷害を軽減する装置です。したがってシートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれがない衝突では、SRSエアバッグは作動しにくくなっています。
- SRSエアバッグは衝突によりボデーが車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。例えば、次のようなボデーが受ける衝撃が弱い場合には、SRSエアバッグは作動しません。

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に約20km/h以下の速度で正面衝突したとき



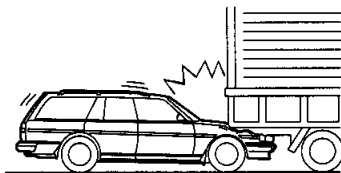
- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき



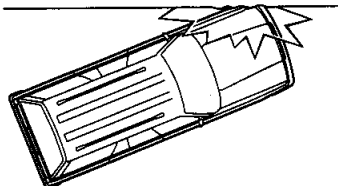
- 衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、SRSエアバッグの作動する車速は高くなります。例えば、停車中の同程度の重さの車への衝突の場合には、約50km/h程度の速度であってもSRSエアバッグは作動しないことがあります。

- 次のような場合も衝突による衝撃が緩められるため、SRSエアバッグが作動しないことがあります。

- トラックの荷台下へもぐりこみ衝突したとき

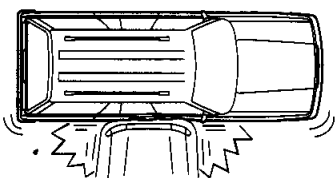


- 前方の斜めの方向から衝撃を受けたとき

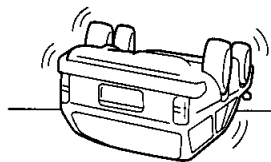


- 次のような場合はSRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。

- 側面や後方からの衝撃を受けたとき



- 車両が横転、転覆したとき



- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などが発生することがあります。

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また人体への影響もありません。

- 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。

